

## 『アメリカ史研究』自由投稿原稿の執筆要項

『アメリカ史研究』編集委員会

### 投稿のジャンルと審査について

自由投稿の原稿は、「論文」、「研究ノート」、「研究動向」の3つのジャンルに大別して募集しています。ジャンルごとに分量の制限があり、「論文」は400字詰め原稿用紙に換算して70枚程度、「研究ノート」は50枚程度、「研究動向」は35枚程度（いずれも図表や註などを含めて計算する）となっています。ただし、完成原稿提出の際には、本誌の体裁に準じて、それぞれのジャンルを明記のうえ、次のような要領で提出してください。いずれも図表や註などを含めた分量です。

論 文： 43字×38行×17枚以内

研究ノート： 43字×38行×12枚以内

研究動向： 43字×38行×9枚以内

規定の枚数を明らかに超えているものについては審査の対象外とさせていただきますので注意してください。また、註については「註の書き方に関するお願い」を参照してください。

提出いただいた原稿は、編集委員会内部の委員および外部レフェリーによって審査され、編集委員会の責任において採否を決定することになります。決定までには1ヵ月半ほど時間がかかりますが、決定次第ご連絡を差し上げます。なお、不採用となった場合でも提出いただいた原稿は返却いたしませんので、ご了承ください。

投稿原稿はジャンルごとに設定された異なる審査基準に従って審査されます。以下、その概要をお知らせしますので、原稿執筆の参考にしてください。

#### (1) 「論文」

ひとつのテーマを掘り下げた実証研究については、まずこのジャンルへの投稿を考えて下さい。このジャンルでは、原稿が「論文」として要求される**形式面および論理構成面での基準**を満たしているかどうか、**史料の扱い方が適切であるかどうか**、また**既存の研究に対する独自性**があるかどうかの3点に則して審査が行なわれます。したがって、そのテーマについての**研究史を整理したうえで論文の課題を明確に設定すること**、**論拠を明確に示すこと**、**史料の解釈やデータの分析を適切に行なうこと**、**結論に至る論理の展開を明快にすること**、類似のテーマに関する既存研究の中ですでに明らかにされていることに加えて**著者独自のオリジナルな知見を含めること**などに留意して原稿を作成することが求められます。

#### (2) 「研究ノート」

このジャンルは、主として現在進行中の研究を公開するために設けられているものと解釈してください。たとえば、現在取り組んでいる研究の、研究史における位置づけや新たな展望を提起するというような原稿が期待されます。審査基準は、「論文」の場合に準じますが、「論文」の場合ほど研究の完成度は要求されません。

#### (3) 「研究動向」

特定のテーマについて近年の研究の流れを整理したり、今後の課題などを論じたりする文章は、このジャンルに投稿して下さい。ここでは、当該のテーマについての主要な研究成果を吟味すると同時に、著者の観点から、それらを評価・整理することが求められます。また、研究の進展によって明らかにされたことは何で、未解決のまま残されている課題は何かを指摘することが必要です。

## 註の書き方に関するお願い

次の諸例を参考にしてください。詳しくは Chicago Manual（第 16 版 [2010 年]）を参照してください。

### I. 註番号・中略の表記

1. 本文中の註番号は上付きの数字で、句読点の内側あるいは「」の外側に付す。  
例 1        という見解もある<sup>1</sup>。「アメリカ的伝統」<sup>2</sup>を考察する。  
例 2        とするならば<sup>3</sup>、その可能性について検討するために
2. 註は文末註とし、上付きの註番号をそのまま用いる。  
例        <sup>1</sup>George Lakoff, *Moral Politics* . . . .  
            <sup>2</sup>この点については、. . . .
3. 直接引用部分の途中で省略されている語句や文がある場合は、[中略] と記載する。  
例        「ハムはカナンの父である。[中略] 彼らから全世界の民はわかれ出た」<sup>1</sup>。

### II. 文末註の文献表記例

原則：①出版社名は洋書・和書にかかわらず必ず記載してください。  
②日本語の書名／学術誌名／雑誌名／新聞名は『 』で、英語の場合はイタリック体で。  
③日本語論文・記事のタイトルは「」で、英語の場合は“ ”で。

#### 1. 書物

##### 1) 単著、単独編者

<sup>1</sup> John Hope Franklin, *George Washington Williams: A Biography* (Chicago: University of Chicago Press, 1985), 60.

<sup>2</sup> Arif Dirlik, ed., *What Is In A Rim: Critical Perspectives on the Pacific Region Idea* (Lanham, MD: Rowman & Littlefield, 1998).

<sup>3</sup> 岡野八代『法の政治学』青土社、2002年、214-15頁。

<sup>4</sup> 村井忠政編『トランスナショナル・アイデンティティと多文化共生——グローバル時代の日系人』明石書店、2007年。

##### 2) 2人の共著

<sup>5</sup> Robert Lynd and Helen Lynd, *Middletown: A Study in American Culture* (New York: Harcourt, Brace and World, 1929), 78.

##### 3) 3人の共著

<sup>6</sup> Mary Lyon, Bryce Lyon, and Henry S. Lucas, *The Wardrobe Book of William de Norwell, 12 July 138 to 27 May 1340, with the collaboration of Jean de Sturler* (Brussels: Commission Royale d'Histoire de Belgique, 1983), 66.

<sup>7</sup> 林かおり、田村恵子、高津文美子『戦争花嫁——国境を越えた女たちの半世紀』芙蓉書房出版、2002年。

##### 4) 4人以上の共編

<sup>8</sup> Martin Greenberger et al., eds., *Networks for Research and Education: Sharing of Computer and Information Resources Nationwide* (Cambridge: MIT Press, 1974), 55.

##### 5) 初版以外

<sup>9</sup> M. M. Bober, *Karl Marx's Interpretation of History*, 2d ed. Harvard Economic Studies (Cambridge: Harvard University Press, 1948), 78.

<sup>10</sup> Florence Babb, *Between Field and Cooking Pot: The Political Economy of Marketwomen in Peru*, rev. ed. (Austin: University of Texas Press, 1989), 199.

## 6) 再版

<sup>11</sup> Michael David, *Toward Honesty in Public Relations* (Chicago: Condor Publications, 1968; reprint, New York: B. Y. Jove, 1990), 123-45.

または、<sup>11</sup> Michael David, *Toward Honesty in Public Relations* (1968; repr., New York: B. Y. Jove, 1990), 123-45.

## 7) 翻訳書

<sup>12</sup> Rigoberta Menchú, *Crossing Borders*, trans. and ed. Ann Wright (New York: Verso, 1999).

<sup>13</sup> エリック・ホブズボーム (河合秀和訳) 『20世紀の歴史——極端な時代』上巻、三省堂、1996年、339-345頁 (Eric Hobsbawm, *Age of Extremes: The Short Twentieth Century, 1914-1991* [London: Michael Joseph, 1994], 225-230)。

または、<sup>13</sup> Eric Hobsbawm, *Age of Extremes: The Short Twentieth Century, 1914-1991* (London: Michael Joseph, 1994), 225-230 (河合秀和訳『20世紀の歴史——極端な時代』上巻、三省堂、1996年、339-345頁)。

## 2. 書物に所収された論文

### 1) 論文の著者が論文集編者と異なる場合

<sup>14</sup> Mary Higdon Beech, “The Domestic Realm in the Lives of Hindu Women in Calcutta,” in *Separate Worlds: Studies of Purdah in South Asia*, ed. Hanna Papanek and Gail Minault (Delhi: Chanakya, 1982), 105.

<sup>15</sup> 桑井輝子「日本政府と二世越境教育——敝之館を事例として」吉田亮編『アメリカ日本人移民の越境教育史』日本図書センター、2005年、262頁。

2) 論文の著者が論文集編者と同じ場合・・・Asia (Delhi: Chanakya, 1982), 105.

## 3. 雑誌論文・記事

### 1) 学術雑誌

<sup>16</sup> Richard Jackson, “Running down the Up-Escalator: Regional Inequality in Papua New Guinea,” *Australian Geographer* 14 (May 1979): 180.

<sup>17</sup> Ilya Bodonski, “Caring among the Forgotten,” *Journal of Social Activism* 14, no. 3 (Fall 1989): 112-31.

<sup>18</sup> 北村暁夫「日常実践としての移民——南イタリア・公証人文書の検討を通して」『史艸』(日本女子大学史学研究会) 41号(2000年)、80-110頁。

### 2) 一般誌

<sup>19</sup> Bruce Weber, “The Myth Maker: The Creative Mind of Novelist E.L. Doctorow,” *New York Times Magazine*, October 20, 1985, 41.

4. 新聞記事 \* 刊行地がわかりにくいものは紙名の後に ( ) で地名を入れること。

<sup>20</sup> *Irish Daily Independent* (Dublin), June 16, 1904.

5. 未出版の博士論文など \* 日本語論文タイトルは「」で、英語論文タイトルは“ ”で。

<sup>21</sup> Gilbert Artioli, “Structural Studies of the Water Molecules and Hydrogen Bonding in Zeolites” (PhD diss., University of Chicago, 1985), 12.

## 6. 古文書館の未出版文書

\* 文書のタイトル・ファイル等番号・コレクション名・図書館／古文書館名／大学名など

<sup>22</sup> Hiram Johnson to John Callan O’Laughlin, 13 and 16 July 1916, 28 November 1916, O’Laughlin Papers, Theodore Roosevelt Collection, Harvard College Library.

<sup>23</sup> Julian D. Steele, “A Study of the Facilities for Improving the Status of Negro in Boston (May 1929),” Typescript, Folder 2, Box 1, Julian D. Steele Papers, Howard Gotlieb Archival Research Center, Boston University, 39-43.

## 7. インタビュー

<sup>24</sup> Mrs. Merle A. Remer, interview by author, Tape recording, Millington, Maryland, July 26, 1973.

<sup>25</sup> Benjamin Spock, interview by Milton J. E. Senn, November 20, 1974, interview 67A, transcript, Senn Oral History Collection, National Library of Medicine, Bethesda, MD.

#### 8. インターネットやCD-ROM など

1) インターネット上の本

<sup>26</sup> Elliot Antokoletz, *Musical Symbolism in the Operas of Debussy and Bartok* (New York: Oxford University Press, 2008), doi:10.1093/acprof:oso/9780195365825.001.0001.

<sup>27</sup> Walt Whitman, *Leaves of Grass* (New York, 1855), 22, <http://www.whitmanarchive.org/published/LG/1855/whole.html>.

2) インターネット上のサイト

<sup>28</sup> “McDonald’s Happy Meal Toy Safety Facts,” McDonald’s Corporation, accessed July 19, 2008, <http://www.mcdonalds.com/corp/about/factsheets.html>.

3) CD-ROM

<sup>29</sup> U. S. Bureau of the Census, *Median Gross Rent by Counties of the United States, 1990*, prepared by the Geography Division in cooperation with the Housing Division, U. S. Bureau of the Census (Washington, D.C.: G.O.P., 1995), [CD-ROM].

#### 9. 裁判の判決文

<sup>30</sup> *Thompson v. Smith*, 170 F. Supp. 331 (D. Conn. 1987).

[注意] 裁判のケースの呼称は本文ではイタリック体で示されるが、註ではローマン体で記載。

### III. その他

1. 1つの註に2つ以上の文献などを記載する場合

<sup>31</sup> Samuel P. Langley, *James Smithson* (Washington, D.C.: Smithsonian Institution, 1904), 18-19; Paul Oehser, *Sons of Science* (New York: Henry Schuman, 1949), 1, 9-12; Webster True, *The First Hundred Years of the Smithsonian Institution, 1846-1946* (Washington, D.C.: Smithsonian Institution, 1946), 2-100.

2. すでに記載した文献を省略して記載する場合

\*原則は、ショートタイトルを用いる (*op.cit.*は使わない)。

1) 1つ前の註と同文献で同ページの場合

<sup>32</sup> *Ibid.*

2) 1つ前の註と同文献であるがページが異なる場合

<sup>33</sup> *Ibid.*, 64-68.

[注意] *Ibid.*はイタリックにしない。また、前の註に複数の文献が記載されている場合は(その最後の文献を指すという意味では)使えない。

3) 前掲の文献を省略して記載する場合(たとえば、註34の文献を註36のように)

<sup>34</sup> Tucker Brooke, *The Renaissance (1500-1600)*, vol. 2 in *A Literary History of England*, ed. Albert C. Baugh (New York: Appleton-Century-Crofts, 1948), 104.

<sup>35</sup> Paul Oehser, *Sons of Science* (New York: Henry Schuman, 1949), 3-6.

<sup>36</sup> Brooke, *Renaissance*, 130.